

平成 29 年度授業改善推進プラン【英語】

〔教科の観点〕

- ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
③外国語理解の能力

- ②外国語表現の能力
④言語や文化についての知識・理解

教科	生徒の実態と分析	指導上の課題	授業改善の視点と方策
1 年	<p>○英語の授業に関して「ねらい」、「授業内容」、「意欲的に参加」、「授業内での考える時間」「考えの交流」「進め方の早さ」、の全ての項目で8割近くの生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>○授業内でのペアワークも意欲的に取り組んでおり、発言も多い。</p> <p>○授業、小テストなどに積極的に取り組んでいる。</p>	<p>○アルファベットを書くことに苦手意識をもっている生徒が多く、個々の学力を把握して適切な指導を行う必要がある。</p> <p>○英語活動に積極的に取り組んでいるので、継続することで更に学力の向上を図る。</p> <p>○リスニング力が不十分な生徒が多い。</p>	<p>○アルファベットの習得については、少人数指導を通して、個に応じた指導を行っていく。</p> <p>○英語を「すらすら」言う活動を継続して行い、英語を使うことや表現する活動に対する抵抗感を減らしていく。</p> <p>○教科書のリスニング活動以外にもリスニング活動を追加し、それを継続しながらレベルアップを図っていく。</p>
2 年	<p>○英語の授業に関して「ねらい」、「授業内容」、「意欲的に参加」、「考える時間」、「考えの交流」、「授業の進度」の全ての項目で7割以上の生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>○授業内でのペアワークや音読練習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○発問に対して積極的に発言できる。</p>	<p>○少人数指導の中で学力差が見られる。</p> <p>○英語に苦手意識をもっている生徒の意欲に課題がある。</p> <p>○学んだ文法を実際にアウトプットすることに苦手意識を感じている生徒が多い。</p> <p>○英語での表現に苦手意識を感じている生徒が多い。</p>	<p>○英語科の教員で生徒の情報についての共有を密に行い、個に応じた適切な学習指導を行っていく。</p> <p>○英語を使用した対話的な活動を通して、英語が苦手な生徒でも、英語を使う喜びを感じられるような授業を展開する。</p> <p>○文法導入の際に、パターンプラクティスや活動を通して文法の練習を充実させる。</p> <p>○授業内で自分について英語で表現する活動を積極的に取り入れ、学んだことを実際に使用させる機会を数多く設けることで、表現に自信をもたせる。</p>
3 年	<p>○英語の授業に関して「ねらい」、「授業内容」、「意欲的に参加」、「考える時間」、「交流する時間」、「進め方の速さ」は9割近くの生徒が、肯定的な回答をしている。</p> <p>○授業内でのプリント学習やペアワークなども、互いに協力しながら取り組んでいる。</p> <p>○学期に2回、スピーチテストを実施し、ほとんどの生徒が意欲的に取り組むことができている。</p>	<p>○少人数指導の中でも、学力差に対する対応が不十分である。</p> <p>○英語から日本語への和訳は、ほとんどの生徒が理解できているが、日本語から英語への英訳に苦手意識をもっている生徒が多い。</p> <p>○長文読解や英作文など入試に出題される分野に対して不安を感じている生徒がいる。</p>	<p>○英語科の教員で常に生徒の情報共有をし、個に応じた適切な学習指導を行っていく。</p> <p>○既習事項の基本的な英文の英訳を帯学習として繰り返し行って、定着を図るとともに、英訳への苦手意識を減らしていく。</p> <p>○授業内で、英作文や長文読解などの入試対策を取り入れ、入試の形式に慣れさせる。</p> <p>○スピーチなどの表現活動は、自己表現力を向上させるため、今後も継続して行っていく。</p>